

|               |   |      |       |
|---------------|---|------|-------|
| 裾野麗峰山の会・山行報告書 |   | 文・IK | 写真・GT |
| 山行番           | NO. 1840  |      |       |
| 日時            | 2019/10/5 (土) 快晴・涼し   |      |       |
| 山域            | 富士山・宝永山2352m峰   |      |       |
| コース           | 駐車場7:18-幕岩横-キノコの森-三辻-小天狗塚-御殿庭10:40-・2352m峰11:30-昼休憩12:45~13:34-駐車場14:37 |      |       |
| 標高差           | 上り 約1345m~・2352m峰=約1007m<br>下り 同上                                       |      |       |
| 快適度           | 5 (5段階評価) = 藪はない  |      |       |
| 参加者           | GT、KH、HT、GM、IK=5名   |      |       |

この週の平日に計画されていた秋山合宿が台風の影響で流れ、その代替案はなかなか決まらなかった。

結局、3か月前の7月6日に行ったコースの秋バージョンとなった。

ちなみに、今回が私の200回目の登山であった。

6:05 新潟運輸下バス停でGさんの車に乗る。

裾野でGMさんをピックアップ。車中、あまりの天気よさに、Gさんは「富士山ではもったいないナ~。他の山はどうか」とメンバーに問いかけたが反応なし。昨日まで、富士山お中道12時間コースや八ヶ岳馬蹄形縦走コースが検討され瀕死状態での帰還を覚悟していたが、一転して富士山1000mコースに変わり、心中穏やかな気持ちになっていた。

ひやひやしたが、予定どおりとなった。それにしても雲一つない青空。

駐車場に到着。先客はない。道路舗装が新しくなっており、白線がまだ引かれていない。工事で駐車場を使うのではないか。



幕岩下沢 (仮称)

7:18 須山登山道の東にある橋の横からスタート。水のない溶岩の岩の沢を上る。

大きな一枚岩のナメがあり、Kさんが挑戦。ここは3か月前に、Kさんが「岩をすべるときは無抵抗になって落ちるんだよ～」と教えてくれながら、本当に落ちてしまったあの場所。

「I、ついてこ～い」と言って、Kさんが登り始めた。

しかし、ほとんど足がかりがないつるつるの岩。

かろうじて出ている1cmくらいのでっぱりや、岩の凹凸に足をはさむようにして岩に張り付く。

Gさんから「井上は、やるな。けがしたら仕事に影響出る。」

との指示。Kさんはここで相当の筋力を消費した。

沢から森の中に入る。キノコ「ジゴボウ」が見つかる。



ジゴボウ（花猪口）

あっちにもこっちにもあり、富士登山は急遽キノコ狩りに変わった。

お互いが見える範囲で散らばりうろうろしてキノコを探す。

私は今回もメガネもコンタクトレンズもしていないせいか、

草に隠れたジゴボウを見つけられない。女性陣はすごい。休みなく見つける。

「ココヘリ」ではなく「ココキノコ」だ。キノコが発する「ここにありますが信号」を着実に受信する機能を持っているようだ。

ビニールの買い物袋はみるみる内にいっぱいなり、ここだけで4袋分採った。

これがなかなか重い。もう十分とったので登りを再開するが、



歩くとまた道のわきに立派なジゴボウが生えているので、つい採ってしまう。

三辻、小天狗塚を通過。御殿庭を上から眺める分岐点まで登る。

女性2人はここで休憩し、男性3人は2352m峰まで残りの300mを登ることになった。

キノコをザックに入れたままだと蒸れてキノコによくないのでそこに置いておくことになった。

ザックが一気に軽くなった。

今日の富士山はいろいろな色に彩られている。

赤、黄土色（赤岩）、茶、黒、木々の緑、オンタデの紅葉の黄色、フジアザミの紫、そして真っ青な空。

鮮やかなのひとこと。富士山以外の方角を見ても何もさえぎるものがなくどこまでも見える。

それほど空気がきれいということか。富士山でかつて味わったことのない景色を楽しんだ。



フジアザミ

男3人になってから、誰もしゃべらない登山に変わった。

御殿庭の手前の第3火口の中にはオンタデが1mくらいの島になって生え、

その島が無数に集まっている。黄色に紅葉し、一部は茶色に枯れかけている。

2色のせいで金色に光って見える。心の中で感動しつつも、

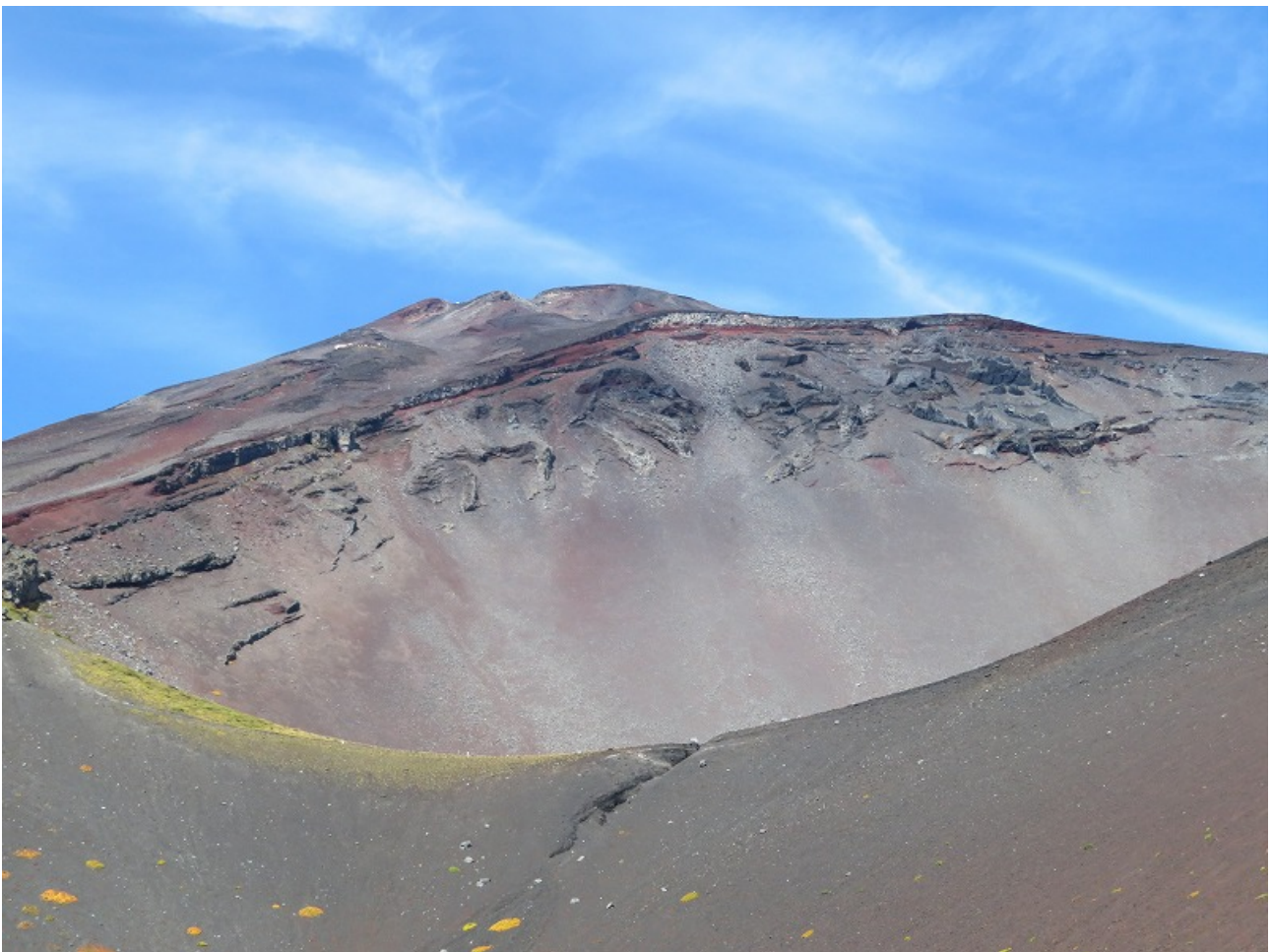
だれもしゃべらずもくもくとのおぼる。さっきまでキノコを見つけては道をそれて収穫し、

最後尾の私がつまみ袋に入れるという作業を繰り返していたので、

進んでは止まりの連続だったが、ここにきてようやく登山らしくなった。



みな下を向き、一定のペースでグングンと登る。キノコを採っているときのほうが疲れた。一気に登るほうが疲れない。やがて、宝永第二火口の巨大な曲線が現れた。思わず「すごい」と声が出た。自然が作った巨大な曲線は視界に入りきらない。無限大の記号「∞」の一部を切り取ったようだ。写真を撮っても画面に入りきらない。ここに来た人だけが見ることができる自然からのプレゼントだ。10:40 から 11:30 の 50 分で約 300m 登った。振り返ると伊豆半島が半島らしく見える。上から見てる感じがする。この景色をみながらビールを飲みたい気分になったが、風が強いのと女性陣を下に待たせているのであきらめた。2352m 峰では 3 歳の男の子を連れた家族がいた。



十二薬師の溶岩模様は「仏」の梵字に見える

私の娘が小学校 4 年で富士山に登ったと言ったら、父親は 3 年生で登ろうと男の子に言っていた。火口の内と外で地面の色が全然違うことが不思議だった。宝永噴火で昔の地層が出たという。御殿庭上の分岐に戻る。昼休憩の景色も楽しい。富士山の上を飛ぶ飛行機が近くに見える。午後になって雲が現れる。自分たちのいるちょっと上に雲が生まれ、形を変えながらすごいスピードで通過していく。見飽きない。第 1 火口の岩壁にある十二薬師が梵字に見える。

やがて、御殿庭の端からガスが乗り越えてきた。

12:45 下山開始。登るときに気づかなかったキノコが目に入り、見た以上はとる。

女性陣は下りながら常に目は周囲を見ていて、キノコが目に入ってしまうようだ。

まったくきりが無い。しかし楽しそう。下りでは、上りと違うルートで砂の沢を下る。

砂走りのよう。砂地の下りは足にやさしい。

鹿が一頭沢を横切った。あちこちで鹿の鳴き声が聞こえる。

また、ここでもキノコが見つかる。途中から森に入る。

ここでは苔むした倒木が何十と続き、高さ 30 センチから 50 センチのハードル越えが延々と続く。



やっぱり富士山は高い

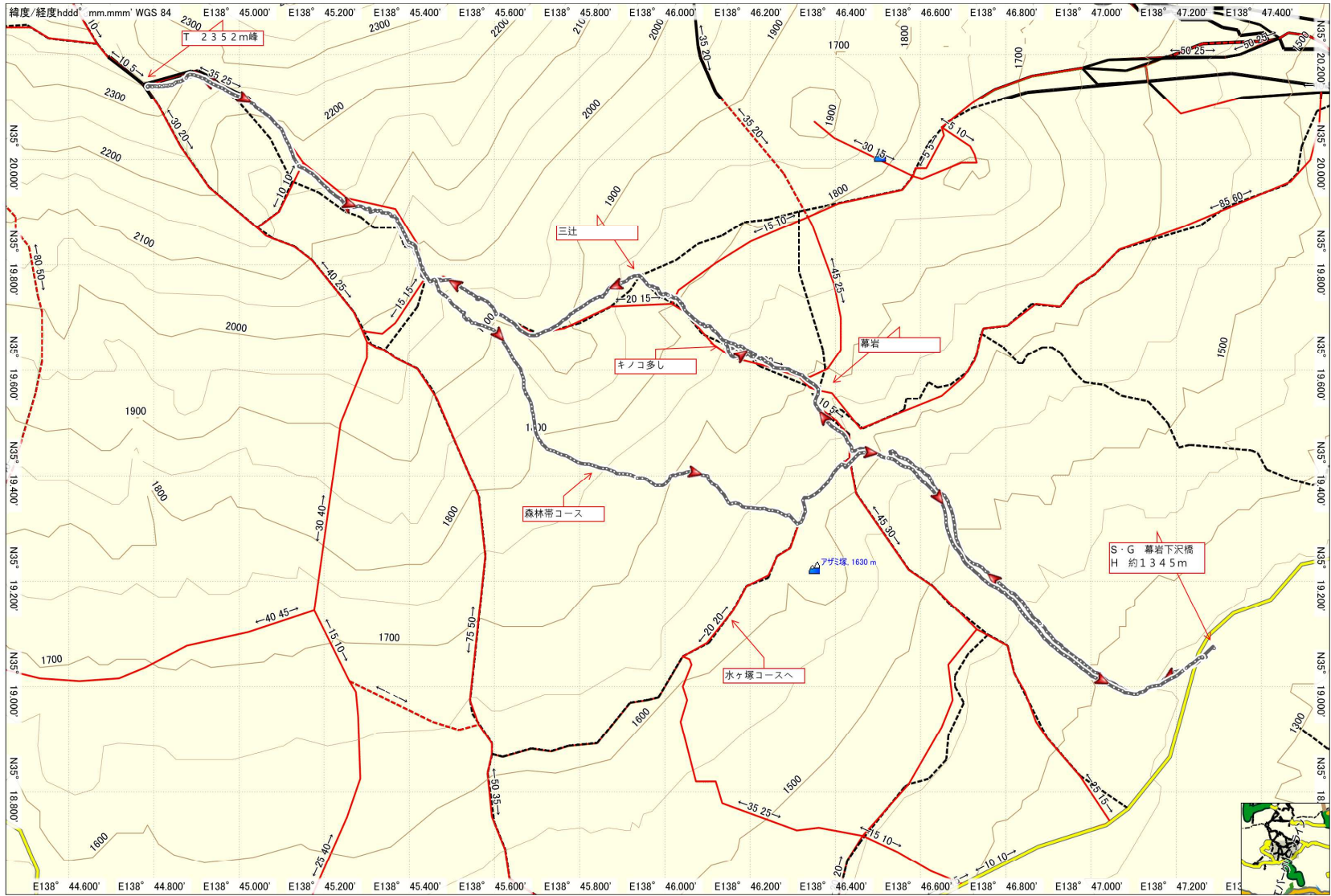
一度須山登山道にでる。そしてまた森に入る。森を抜けたところで出発地点の橋のところに出た。

14:37 駐車場着。戻ってみると駐車場は工事車両と作業車でいっぱいだった。道路の白線は引き終わっていた。ここでキノコをわけることになったが、山でとってきたものを家に持って帰ると嫁さんに嫌がられると思い持って帰らないことにした。御胎内温泉で汗を流す。5 日前に 10%にアップした消費税のため 1000 円に値上げされていた。

家に帰って嫁さんに聞くと、ぬるぬるのキノコなら食べたいというのでもらっていけばよかったとがっかりした。

(了)





Japan Topo 10M Plus V3  
 GarminMapSource Co., Ltd. 2014  
 Garmin Corporation 1002014

2019/10/06 9:48:09

0 m 150 m 300 m 450 m 600 m

GARMIN

2019/10/01